

今週の為替相場見通し(2019年4月15日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		110.84 ~ 112.09	112.02	111.80 ~ 113.20
ユーロ	(ドル)		1.1212 ~ 1.1324	1.1300	1.1200 ~ 1.1400
(1ユーロ=)	(円)		124.78 ~ 126.76	126.55	124.00 ~ 128.00
英ポンド	(ドル)		1.3025 ~ 1.3132	1.3070	1.3000 ~ 1.3300
(1英ポンド=)	(円)	*	144.79 ~ 147.02	146.48	145.00 ~ 148.00
豪ドル	(ドル)		0.7088 ~ 0.7192	0.7173	0.7100 ~ 0.7300
(1豪ドル=)	(円)	*	78.95 ~ 80.49	80.34	79.50 ~ 82.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替市場第一チーム 緒方 大輔

(1)今週の予想レンジ: 111.80 ~ 113.20 円

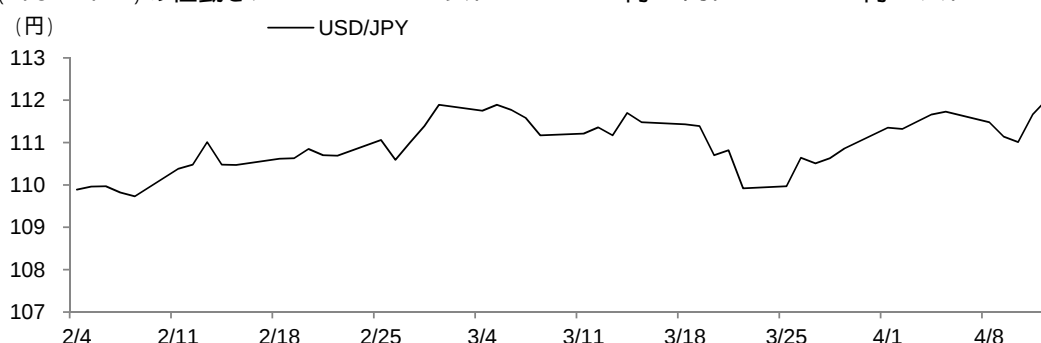
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は上昇した。週初8日に111円台後半でオープン。トランプ米大統領がイランの革命防衛隊をテロリストに指定したことやリビアの内戦本格化懸念から原油と金価格が急伸し、ドル売り優勢の中、111円台前半まで下落。9日はIMFが公表した世界経済見通しで2019年の成長見通しが下方修正され、金融危機以来の低成長が示唆されたことで米株先物が下落し、ドル/円も110.98円まで連れ安となった。だが、111円割れは長くは続かず、その後は111円台前半で推移。10日は、ECB政策理事会後の記者会見でドラギECB総裁がマイナス金利の副作用を軽減する策が必要かどうかを検討と発言したほか、年内は景気やインフレの弱さが続くこと述べたことからユーロ/円が下落する動きにドル/円も値を下げた。その後はFOMC議事要旨の公表を前に一時週安値となる110.84円まで値を下げたが、特段のサプライズ無くイベント通過で買い戻しが入ると再び111円台を回復した。11日は米3月生産者物価指数が予想を上回ったことなどから米金利が上昇すると、ドル/円は111円台後半まで上昇した。12日は、日経平均株価の上昇や、中国の新規融資額等の与信データが市場予想を上回ったこともありクロス/円中心に上昇。ドル/円は、週高値である112.09円まで上昇し越えた。

今週のドル/円相場は底堅い展開を予想。先週はECB政策理事会、FOMC議事要旨と主要なイベントをこなし、サプライズはなかった。米株式市場を見ても先週の金曜日から始まった米企業決算ではまずは堅調さが見られ続伸。また、中国の経済指標の強さも相場の楽観ムードをサポートする材料となっておりドル/円は引き続き底堅い推移が継続すると見ている。一方で、週末ムニースン米財務長官は15日から始まる日米貿易協定交渉について「為替も議題となり、協定には通貨切り下げを自制する為替条項を含めることになる」と明言しており、米国側からのヘッドラインにより円高に振れるリスクには注意したい。今週は、17日(水)に中国1~3月期GDP、中国3月鉱工業生産、18日(木)に米3月小売売上高の発表が予定されている。また、米企業決算発表も今週から本格化することから市場の景気に対する楽観ムードをサポートできるか注目。

(3)先週までの相場の推移

先週(4/8~4/12)の値動き: 安値 110.84 円 高値 112.09 円 終値 112.02 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

為替営業第二チーム 菊池 雄太

(1) 今週の予想レンジ: 1.1200 ~ 1.1400 124.00 ~ 128.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は上昇した。週初8日に1.12台前半でオープンしたユーロ/ドルは一時週安値となる1.1212をつけたが、ドル売りが強まる展開にじり高で推移。米通信会社が「ECBはマイナス金利見直しを急いでいない」との内容の記事を出したがユーロ売りは強まらず、その後はドル売り優勢地合いとなり1.12台後半まで上昇した。9日はメルケル独首相がアイルランド国境のバックストップ案に5年の期限を設定するとの報道(後に独政府が否定)を受けポンドが上昇する動きにユーロ/ドルは週高値圏まで連れ高となったが、このレベルでは売り意欲もあり反落した。10日はドラギ総裁の記者会見を控えて1.1288をつけたものの、ドラギECB総裁がマイナス金利の副作用を軽減する策が必要かどうかを検討と発言したほか、年内は景気やインフレの弱さが続くこと述べたことからユーロ全面安となり1.12台前半まで急落。しかしその後は、米金利低下を手掛かりにドル売りが強まるとユーロ/ドルは1.12台後半まで反発する荒い展開となった。11日は、英国のEU離脱期限を10月末まで延長することが決まったものの相場への影響は限定的。米金利上昇を受けたドル買いにやや下押しされたものの、12日は仲値にかけてユーロ/円に買いが入り、ユーロ/ドルも週高値1.1324まで上昇し、1.13付近で週越した。

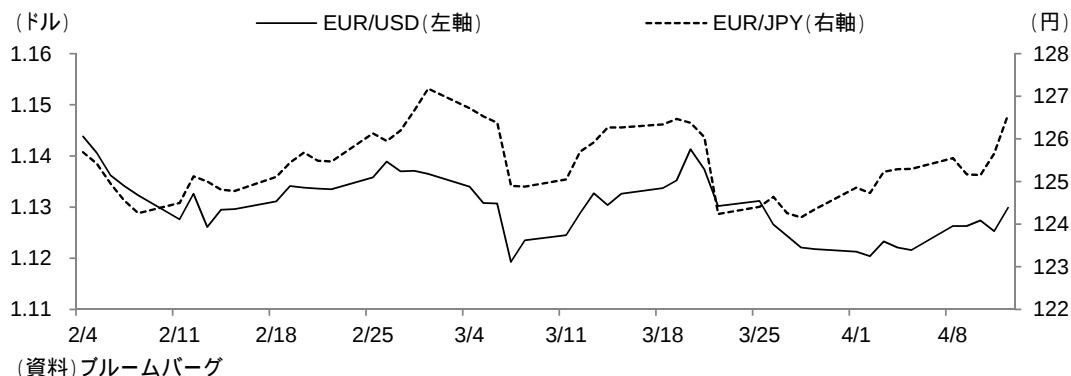
今週のユーロ相場は、1.12~1.14のレンジ内の動きを予想する。10日に開催された臨時EU首脳会議は8時間に及ぶ議論の末、英国のEU離脱(ブレグジット)期限に関し、10月31日まで再延長することで合意した。事前報道の通り、EUは12か月間、メイ英首相は3か月間(今年6月末まで)を主張していたが、結果は足許から約6か月間の延長に落ち着いた。欧州委員会の現執行部が任期を迎える10月末で折り合った格好。議論の進展がなかなか見えなく、「合意なき離脱」は今後もリスクとして残るものの、足元は懸念が後退している。また、ECBは10日に開いた理事会で現在の金融緩和策の維持を決めた。一方、ドラギ総裁はユーロ圏経済について、「リスクはなお下方に傾いている」と警戒感を示し、「あらゆる政策調整の準備は出来ている」とも述べた。ユーロ圏の経済については、「エコノミック・サプライズ指数」(経済指標予想と実際の乖離を指数化)は大きくマイナス圏に沈んでおり、ECBは景気減速次第では一段のハト派色を強める可能性もあり、今後のユーロ圏の経済指標には注目をする必要があろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/8~4/12)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1212 高値 1.1324 終値 1.1300

(対円) 安値 124.78 高値 126.76 終値 126.55



3. 英ポンド

(1) 今週の予想レンジ: 1.3000 ~ 1.3300 145.00 ~ 148.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、EU臨時サミット等のイベントを通過したものの小動き。週初8日は、英EU離脱交渉について、英国内では、英政府が労働党へ新たなオファーをするも、この中に労働党が求める関税同盟残留は含まれなかった。労働党は引き続き、妥協には程遠い内容であると英政府を非難。一方、対EUでは、メイ首相が10日のEU臨時サミットにむけて、9日にメルケル独首相、マクロン仏大統領と会談することが伝わったほか、他EU首脳とも電話会談を実施した旨が報じられたが、イベントを控え相場は膠着ムードだった。翌9日、「メルケル独首相が、バックストップ案に5年の期限を設けることに前向きであると、英離脱強硬派が聞いた」とのヘッドラインでポンドは一時上昇したものの、直後に独政府はこの報道を否定、すぐに反落した。翌10日、ECB理事会後のドラギ総裁会見では、あらためて景気の下振れリスクについて言及されたほか、マイナス金利政策長期化の悪影響について議論、検討されていることが再認識されユーロ安に。ポンドも一時、連れ安となるも、夜にEU臨時サミットを控え、すぐに持ち直した。EU臨時サミットでは、英国が5月の欧州議会選挙に参加することを条件に、10月31日までのEU離脱期限延期が合意された。メイ首相が要求した3か月よりは長く、トスクエ大統領が提案した1年間よりは短く、間をとった曖昧な形で決着したことや、延期そのものはコンセンサスだったこともあり、相場の反応は限定的だった。翌11日、メイ首相は英議会向け説明で、5月22日までに合意案の議会承認ができれば、欧州議会選挙への参加が不要であることや、労働党との合意に至らなければ議員たちによる投票に委ね、政府がその結果に従うことを表明。離脱強硬派がメイ首相の辞任を求める場面が見られたほか、コービン労働党党首は、あらためて英政府の譲歩が必要だと表明した。特段の進展が見られない中、ポンドはじり安。翌12日、閣僚と労働党の会談は実施されたものの目新しい材料は出てこず、ドル全面安となるなか、ポンドも買い戻され、週の取引を終えた。

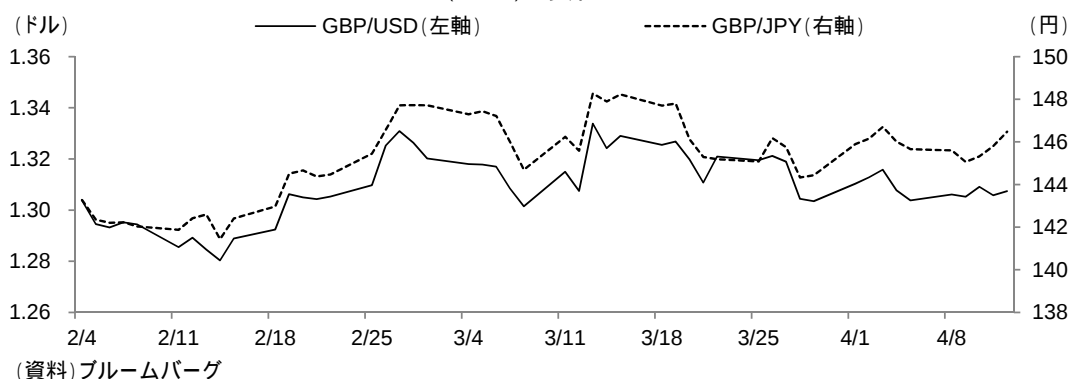
今週の英ポンド相場は、底堅く推移、上値を探る展開を予想。引き続き英EU離脱交渉の動向に注目が集まるものの、英議会は4月23日までイースター休暇に入るため一時休戦モード、ヘッドラインリスクは減少すると考える。また、メイ首相は4月2日以降、ソフトブレグジットに傾く姿勢を鮮明にしておき、上記の通り、今月11日の英議会向け説明では、与野党合意に至らない場合について、最終的に議員らによる投票に委ね、政府が結果に従うと表明した。4月3日の投票以降、議会主導のインディカティブ投票が実施できなくなっていたため、英政府が一步、英議会へ歩み寄った形か。離脱強硬派からの反発はあるものの、合意なき離脱を回避しつつ（仮に英国が望めば、10月31日以降への離脱期限再延期の可能性も残されている）、着地点を探っている現状は、ポンドのボラティリティ急低下が示した通り、市場に安心感を与え、相場をサポートするだろう。一方、与野党間の溝は深く妥協が遠いこと、メイ首相が「合意が成立したら首相を辞任する」と明言していること、5月には地方選や欧州議会選挙を控えていること等、不確定要素は依然として多く、ボラティリティの急上昇には注意が必要である。経済指標では17日(水)に英3月消費者物価指数が発表されるが、英EU離脱期限が先延ばしにされた今、英金融政策委員会も身動きが取り難い時間が継続すると考えられ、ポンドの方向感に大きく影響を及ぼすことは期待できないだろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/8~4/12)の値動き:

(対ドル) 安値 1.3025 高値 1.3132 終値 1.3070

(対円) 安値 144.79 高値 147.02 終値 146.48



4. 豪ドル

為替営業第二チーム 田家 裕介

(1) 今週の予想レンジ: 0.7100 ~ 0.7300 79.50 ~ 82.00 円

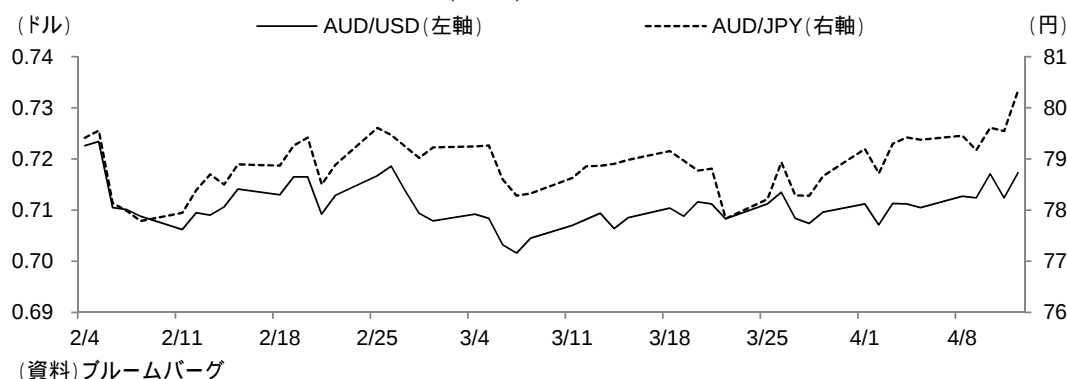
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルは上昇する展開となった。週初8日、0.7100付近で取引を開始した豪ドルは株価がやや弱含む中、週最安値0.7088まで下落。しかし、リビア情勢やOPEC主導の減産、米国の対イラン・ベネズエラ制裁を背景に原油の供給量が低下するとの思惑から原油価格が5か月ぶりの水準まで上昇する中、豪ドルも底堅い展開となり、0.7131まで堅調推移。9日、豪2月住宅ローン件数が予想対比良好な結果となったことから0.7150付近まで続伸するも、IMFが世界経済見通しを従来の+3.5%から+3.3%へ引き下げたことから株価が下落する中、豪ドルは0.7120台まで反落。10日、デベル豪州準備銀行(RBA)副総裁の講演がハト派な内容でなかったことから0.7140付近まで反発。その後、FOMC議事要旨が公表され、サプライズ無く通過したことから株価が上昇する中、豪ドルも0.7175まで上昇。11日、原油価格が下落したことに加え、モリソン豪首相が総選挙の日程を5月18日と発表するも、与党が不利であることが意識されると0.7120付近まで反落。12日、中国3月貿易収支が発表され、輸出が予想対比良好な結果になったことや株価が上昇する中、豪ドルは週最高値0.7192まで底堅く推移し、0.71台後半で越過した。豪ドル/円も上昇した。週初8日、79.20円付近で取引を開始した豪ドル/円は豪ドルが上昇する中、9日にかけて79.60円付近まで上昇。しかし10日にかけてIMFの世界経済見通しの公表やデベルRBA副総裁の講演を受けて下に往って来いの展開。その後ドル/円が底堅く推移したことや良好な中国の経済指標を背景に12日には80.30円付近まで上昇し、同水準で越過した。

今週の豪ドルは200日移動平均線を明確に上抜けることができるか試される展開を予想する。まず12日に発表された中国3月貿易収支は2月に大幅減となった輸出が前年比+14.2%増となり、予想対比良好な数字となった。豪州の主要貿易相手国である中国経済へのポジティブな見方は豪ドル相場を押し上げる要因となろう。また米中通商協議に関しては米中双方からポジティブな発言が出ていることや原油や鉄鉱石などのコモディティ価格が底堅く推移していること等、豪ドルを取り巻く環境は良好だと言える。しかし、テクニカル面では0.7200付近は200日移動平均線がある。2018年4月以降、この200日移動平均線付近まで上昇する局面が複数回見られたものの、いずれも反落している。12日に上昇した際もこのレジスタンスで上昇が止められていることから上値として強く意識される可能性が高いだろう。豪ドルは底堅い展開を予想しているものの、このレジスタンスを明確に上抜けることができるか試される展開になりそうだ。今週の重要イベントは16日(火)にRBA議事要旨、17日(水)に豪3月ウェストバック景気先行指数、18日(木)に豪3月雇用統計が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/8~4/12)の値動き: (対ドル) 安値 0.7088 高値 0.7192 終値 0.7173
(対円) 安値 78.95 高値 80.49 終値 80.34



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。